

# 整備機器

## 新商品

### 東洋精器工業(株)

乗用車用ホイールバランサー

## 「TRIM BP-67A」

# スタンダード機に高機能を



レーザーライン機能を採用。作業効率が向上した。

め、ビハインド機能やマッティング機能、LED照明の標準搭載などの先進的な機能は「BP-68」と共通している。

アップ構想は、その点を踏まえ、スタンダードモデルの性能充実に力点を置いたものとなっている。2019年秋から販売を開始した乗用車用ホイールバランサーの新製品「TRIM(トリム) BP-67A」はまさにそれを象徴するものと言える。

基本性能を高め測定精度を向上させつつ、優れたコストパフォーマンスを実現した。その新製品の解説と実演デモを、販売企画部長・長瀬・技術部門リーダーの小山哲裕さん(写真)が担当してくれた。

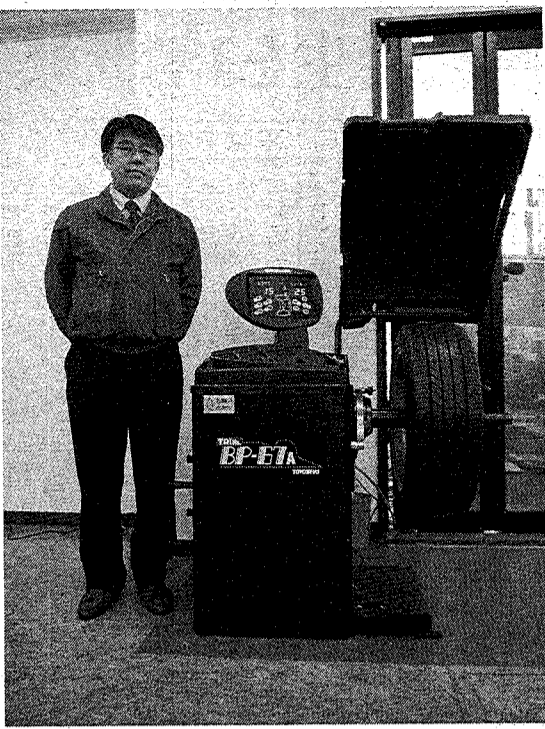
東洋精器工業株式会社(兵庫県宝塚市、阿瀬正浩社長)は現在、製品ラインアップを10年という長いスパンで俯瞰した上で最適化し販売展開するという取り組みを進めている。

そのときに「鍵となるのがスタンダードモデルだ」と、太田正彦常務取締役は指摘する。スタンダードモデルは技術スキルの高いタイヤ専門店のスタッフだけでなく、SSや量販店といったキャリアの浅いスタッフが使用するケースも非常に多い。

仮に技術スキルにレベル差があるスタッフが作業現場に混在したとしても、作業の仕上がりには格差が生じるようないことがあってはならない。どのような業種であっても、また誰が使用しても使やすくて、作業しやすい。しかもコストパフォーマンスに優れること――

同社では2016年、創業70周年を迎えたのを機としてホイールバランサーの製品戦略を見直した。それによりこれまで「TRIM」と「PRES」TO(フレスト)の2つのシリーズを上市していたホイールバランサー・ブランドを「TRIM」に一本化。その新製品第一弾として上市したのが「TRIM BP-67/BP-68」の2機種だ。ポジションとして「BP-67」がスタンダード仕様、「BP-68」はワンランク上のデラックス仕様となる。

今回の「BP-67A」には、デラックス仕様の「BP-68」の一部機能をスタンダード仕様の「BP-67」に追加採用した。それにより作業性を向上させ、バランス精度の向上にも貢献したと、小山さんは話す。



その追加採用した機能とはレーザーライン機能だ。内面修正モード時に、位相を合わせると、ホイール下方に赤い色のレーザーラインが自動的に照射されるもの。そのレーザー

位置をガイドとしてウェイトを貼り付けられるので、作業効率が向上した。

小山さんは「レーザーがないと、作業者の感覚で貼ることになるので、人によっても真下に貼ろうとして、手前に貼ったり奥に貼ったりすることがあり、なかなか綺麗に貼ることができないケースがありました。そのような人の勘に頼ることがないので、貼り付け作業が容易となり、誰でも同じ位置で正確に修正できます」と、実演しながら解説する。

位相位置のロック方式には「BP-67」を引き継ぎ、ベダルロック方式を採用した。電磁ロックタイプを採用している「BP-68」とは異なる点の一つ。ウェイト取り付け時、修正位置のスレを防止するという、作業性と作業品質の向上に寄与する機能だ。

一方で、リム径・距離自動ユニットをはじめ

(横野 正義)